

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	2016年6月30日（当初設定日）から無期限です。	
運 用 方 針	信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。	
主要投資対象	当ファンド	ピクテ日本ナンバードワン・マザーファンド受益証券
	マザーファンド	わが国の株式
運 用 方 法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国のナンバーワン企業※の株式に投資します。 ※ナンバーワン企業とは、優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力およびマーケティング力を有し、業界トップシェアを誇る企業、または今後それが期待される企業を指します。	
主 な 投 資 制 限	当ファンド	①株式への実質投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。
	マザーファンド	①株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。
分 配 方 針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	



PICTET

iTrust日本株式

愛称：日本選抜

～シェアNO.1企業厳選～

運用報告書(全体版)

第9期

決算日：2025年7月22日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「iTrust日本株式」は、2025年7月22日に第9期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

○最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			参 考 指 数 期 騰 落 中 率	株 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 込 分	み 金	期 騰 落 中 率			
	円	円	円	%	%	%	百万円
5 期(2021年 7 月20日)	17, 480	0		26. 7	22. 3	96. 5	2, 087
6 期(2022年 7 月20日)	17, 896	0		2. 4	5. 5	97. 1	3, 117
7 期(2023年 7 月20日)	20, 468	0		14. 4	19. 3	97. 8	4, 882
8 期(2024年 7 月22日)	25, 124	0		22. 7	27. 9	98. 0	7, 319
9 期(2025年 7 月22日)	24, 978	0		△ 0. 6	2. 8	99. 0	8, 292

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日（2016年 6 月30日）を10, 000として指数化したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額	参 考	指 数	株 組	入 比	式 率
		騰 落 率		騰 落 率			
(期 首)	円	%		%			%
2024年 7 月22日	25, 124	—	27, 360	—			98. 0
7 月末	24, 885	△1. 0	27, 040	△1. 2			98. 5
8 月末	24, 457	△2. 7	26, 256	△4. 0			98. 4
9 月末	24, 301	△3. 3	25, 854	△5. 5			97. 9
10月末	24, 493	△2. 5	26, 340	△3. 7			97. 9
11月末	24, 425	△2. 8	26, 205	△4. 2			98. 3
12月末	25, 092	△0. 1	27, 259	△0. 4			99. 2
2025年 1 月末	25, 095	△0. 1	27, 297	△0. 2			98. 6
2 月末	23, 931	△4. 7	26, 264	△4. 0			98. 2
3 月末	23, 762	△5. 4	26, 322	△3. 8			97. 7
4 月末	23, 796	△5. 3	26, 409	△3. 5			97. 9
5 月末	24, 965	△0. 6	27, 757	1. 5			98. 3
6 月末	25, 295	0. 7	28, 302	3. 4			98. 9
(期 末)							
2025年 7 月22日	24, 978	△0. 6	28, 136	2. 8			99. 0

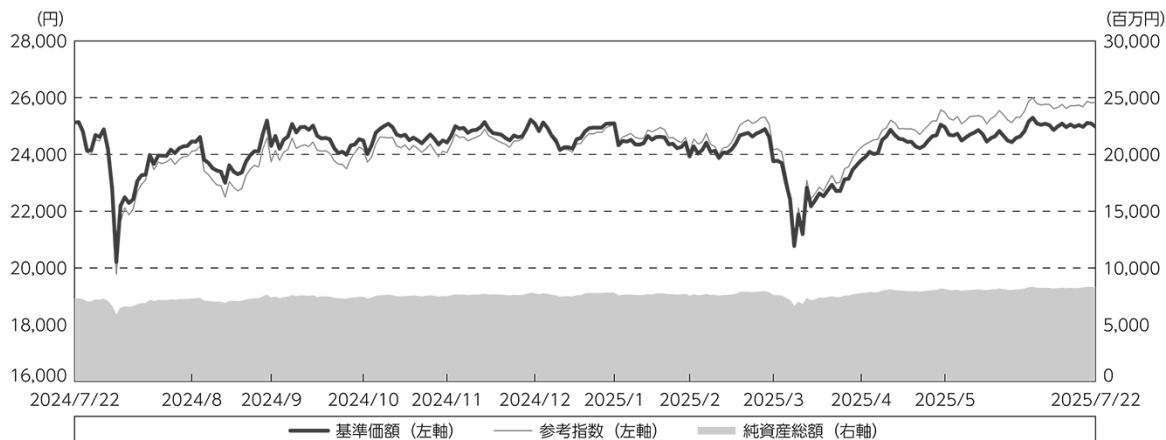
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日（2016年 6 月30日）を10, 000として指数化したものです。

基準価額等の推移

当期の基準価額は、0.6%の下落となりました。



期 首：25,124円

期 末：24,978円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 0.6%

(注) 参考指数は、期首(2024年7月22日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 参考指数は、配当込みTOPIXです。

◇主な変動要因

(当期前半)

下落↓・実質的に組入れている、アルバック（電気機器）、信越化学工業（化学）、村田製作所（電気機器）、三井化学（化学）、三井不動産（不動産業）などの株価が下落したこと

(当期後半)

上昇↑・実質的に組入れている、東宝（情報・通信業）、イビデン（電気機器）、バンダイナムコホールディングス（その他製品）、住友電気工業（非鉄金属）、アズビル（電気機器）などの株価が上昇したこと。

投資環境

- ・当期の日本株市場は、2024年7月から10月までは、米国の景気動向、日米の金融政策の行方、円安から反転し大幅に円高・米ドル安が進行した為替市場などに振られ値動きの非常に荒い展開でした。8月には歴史的な大暴落を演じ、その後は円高・米ドル安に歯止めがかかるなか持ち直し大幅下落の大部分を取り戻したものの、上値の重い展開で推移しました。11月から2025年1月までは、トランプ新政権の政策への不透明感を重荷に神経質な展開ながら、堅調な米景気や日銀の追加利上げ観測の後退などを受けての円安・米ドル高進行、米株高などを好感し上昇となりましたが、10月までのマイナスを取り戻すには至りませんでした。米大統領選でのトランプ氏の圧勝を受けた、減税、規制緩和などの米景気刺激策への期待の高まり、米株高などを背景に堅調に推移する場面はあったものの、その後はトランプ新政権による関税引き上げや移民規制強化などの政策への警戒感、米国のインフレ再燃への懸念などが意識され上値が重い展開でした。3月中旬まで一進一退の推移であったものの、その後はトランプ米政権による市場の想定以上に厳しい内容となった「相互関税」の発動、貿易戦争激化および世界経済悪化への警戒感の高まりを背景に大幅下落となり、TOPIXは4月7日に一時、2024年8月以来の安値を付けました。その後は、米政権による相互関税の上乗せ税率適用の一時停止発表、米国と各国の関税交渉の進展期待の高まりなどを受け急ピッチな上昇を演じ、TOPIXは2025年5月中旬まで13連騰を記録し、相互関税発動前の水準を回復しました。その後は反発局面が一巡し、再び上値の重さが意識される一進一退の展開となり、イスラエルによるイランの核関連施設攻撃を受け一時はリスク回避姿勢を強める場面もありました。しかし、イスラエルとイランの停戦合意を受け上昇に転じると、米国の早期利下げ観測の高まり、米ハイテク株高などを背景に上昇し期中高値を付けました。期末にかけては、米政権の関税・通商政策を巡る不透明感の高まりに加え、7月20日投開票の参院選の不確実性も意識され、上値の重い神経質な展開で終了となりました。

組入状況

当ファンドが主要投資対象とするピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。

<マザーファンドの組入状況>

主としてわが国のナンバーワン企業※の株式に投資してまいりました。

※ナンバーワン企業とは、優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力およびマーケティング力を有し、業界トップシェアを誇る企業、または今後それが期待される企業を指します。

組入銘柄の選択に当たっては、企業の利益成長に着目し、高い利益成長が期待できる銘柄に投資してまいりました。

◇組入上位10業種

【期首】

業種名	組入比率
電気機器	22.1%
化学	8.5%
機械	8.0%
小売業	6.7%
輸送用機器	5.7%
サービス業	5.1%
精密機器	5.1%
銀行業	5.0%
情報・通信業	3.4%
不動産業	3.4%

【期末】

業種名	組入比率
電気機器	25.0%
化学	10.5%
機械	6.7%
小売業	6.5%
輸送用機器	5.7%
銀行業	5.6%
精密機器	4.8%
サービス業	4.5%
情報・通信業	3.6%
不動産業	3.4%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄

【期首】

銘柄名	業種名	組入比率
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.3%
日立製作所	電気機器	2.5%
信越化学工業	化学	2.2%
TDK	電気機器	2.2%
東京海上ホールディングス	保険業	2.2%
オリックス	その他金融業	2.1%
トヨタ自動車	輸送用機器	2.1%
富士通	電気機器	2.1%
リクルートホールディングス	サービス業	2.0%
三井不動産	不動産業	2.0%

【期末】

銘柄名	業種名	組入比率
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.9%
日立製作所	電気機器	2.8%
住友電気工業	非鉄金属	2.7%
イビデン	電気機器	2.4%
ソニーグループ	電気機器	2.2%
富士通	電気機器	2.2%
トヨタ自動車	輸送用機器	2.2%
アズビル	電気機器	2.0%
パン・パシフィック・インターナショナルHD	小売業	2.0%
東宝	情報・通信業	2.0%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

当期末の組入上位銘柄は、

- 三菱UFJフィナンシャル・グループ : 金融グループ国内NO.1。傘下に三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券など。海外展開に積極的。
- 日立製作所 : 総合電機・重電分野で国内NO.1。社会インフラ事業を中心に、ソフトとハードの融合による独自のビジネスモデルに注力。今後は売上増による利益成長ヘシフト。
- 住友電気工業 : 電線で国内NO.1。自動車用ワイヤーハーネスに加え、電力ケーブルの高圧直流ケーブル、海底ケーブル用光ファイバーなど世界トップ・トップクラスの製品多数。
- イビデン : ハイエンド半導体パッケージ基板で世界NO.1。次世代パッケージにより半導体の性能向上をサポートし、パッケージへの付加価値シフトの恩恵享受。
- ソニーグループ : CMOSイメージセンサーで世界NO.1。ゲーム、映画・音楽も世界大手の一角。テクノロジーに裏打ちされたクリエイティブエンタテインメントカンパニーとして進化。

などとなりました。

収益分配金

当期の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、見送りとさせていただきます。

なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

◇分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第9期
	2024年7月23日～ 2025年7月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	14,977

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(1) 投資環境

2025年7月下旬の日本株市場は、急転直下の日米関税交渉合意を受けて大幅上昇を演じています。22日(現地時間)に一転してトランプ米大統領が日米関税交渉の合意を発表し、日本への相互関税を15%とし自動車への関税も15%に引き下げると伝わると、TOPIXは23日、24日の2日間で5%近い上昇となり、2024年7月の高値を上回って約1年ぶりに過去最高値を更新しました。米関税政策を巡る不透明感の後退は好感されるものの、米国の関税引き上げによる世界景気および企業業績の悪化懸念は依然として残るうえ、短期的には急ピッチな株価上昇による過熱感も意識されるだけに、一段と上値は重くなりそうです。また、参院選での与党大敗を受けた政局混迷への懸念も重石となります。市場がさらなる上昇基調に転じるには、トランプ米政権の関税・通商政策の世界景気および企業業績への影響がより明らかになり、その先の景気・企業業績の見通し向上が待たれます。なお、日本株の指標面での相対的な割安感、日本企業の株主還元強化や資本効率改善に向けた取り組みへの期待は変わらず支えとなります。したがって当面の株式市場は、トランプ米大統領の政策および米景気の行方、国内の政治情勢、日米の金融政策、為替市場、中国の景気動向、中東およびウクライナ情勢などを注視しつつ、下期以降の景気・企業業績の先行きを見極めていく展開となりそうです。

(2) 投資方針

ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国のナンバーワン企業の株式に投資してまいります。

<マザーファンド>

優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力、マーケティング力などを有し、業界トップシェアを誇るナンバーワン企業の選別に引き続き注力しパフォーマンス向上に努めてまいります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2024年 7 月23日～2025年 7 月22日)

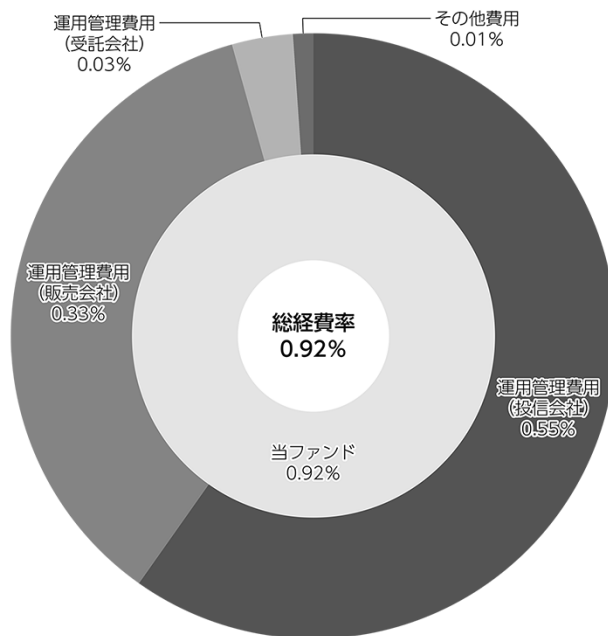
項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 224	% 0.913	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(135)	(0.550)	・ ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販 売 会 社)	(81)	(0.330)	・ 購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受 託 会 社)	(8)	(0.033)	・ ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.016	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株 式)	(4)	(0.016)	・ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	3	0.013	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(2)	(0.007)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.006)	・ その他は、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用
合 計	231	0.942	
期中の平均基準価額は、24,541円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.92%です。



(注) 上記の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年 7 月23日～2025年 7 月22日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド	313,766	1,414,846	121,071	560,356

(注) 単位未満は切り捨てています。

○株式売買比率

(2024年 7 月23日～2025年 7 月22日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	9,683,270千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	17,312,261千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.55

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2024年 7 月23日～2025年 7 月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2024年 7 月23日～2025年 7 月22日)

該当事項はございません。

○特定資産の価格等の調査

(2024年 7 月23日～2025年 7 月22日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年7月22日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド	1,560,211	1,752,906	8,250,932

(注) 単位未満は切り捨てています。

○投資信託財産の構成

(2025年7月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド	8,250,932	99.0
コール・ローン等、その他	82,684	1.0
投資信託財産総額	8,333,616	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2025年7月22日現在）

○損益の状況（2024年7月23日～2025年7月22日）

項	目	当 期 末
		円
(A)	資産	8,333,616,664
	コール・ローン等	82,683,071
	ビクテ日本ナンバーワン・マザーファンド(評価額)	8,250,932,801
	未収利息	792
(B)	負債	40,996,088
	未払解約金	4,995,090
	未払信託報酬	35,500,630
	その他未払費用	500,368
(C)	純資産総額(A－B)	8,292,620,576
	元本	3,320,002,492
	次期繰越損益金	4,972,618,084
(D)	受益権総口数	3,320,002,492口
	1万口当たり基準価額(C／D)	24,978円

項	目	当 期
		円
(A)	配当等収益	93,078
	受取利息	93,078
(B)	有価証券売買損益	107,644,427
	売買益	114,267,606
	売買損	△ 6,623,179
(C)	信託報酬等	△ 70,469,996
(D)	当期損益金(A＋B＋C)	37,267,509
(E)	前期繰越損益金	1,525,886,584
(F)	追加信託差損益金	3,409,463,991
	(配当等相当額)	(1,733,414,272)
	(売買損益相当額)	(1,676,049,719)
(G)	計(D＋E＋F)	4,972,618,084
(H)	収益分配金	0
	次期繰越損益金(G＋H)	4,972,618,084
	追加信託差損益金	3,409,463,991
	(配当等相当額)	(1,734,033,256)
	(売買損益相当額)	(1,675,430,735)
	分配準備積立金	1,623,734,141
	繰越損益金	△ 60,580,048

<注記事項（当運用報告書作成時点では、監査未了です。）>
(貸借対照表関係)

(注) 期首元本額2,913,363,439円
期中追加設定元本額923,016,899円
期中一部解約元本額516,377,846円
(注) 1口当たり純資産額2,4978円

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(97,847,557円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(3,348,883,943円)および分配準備積立金(1,525,886,584円)より分配対象収益は4,972,618,084円(10,000口当たり14,977円)ですが、当期に分配した金額はありません。

○お知らせ

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に対応するため運用報告書の記載箇所において所要の約款変更を行いました。

<ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド>

下記は、ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド全体(3,328,203千口)の内容です。

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (1.4%)			
ショーボンドホールディングス	47.9	45.5	215,715
食料品 (3.1%)			
アサヒグループホールディングス	53.3	130.2	244,580
日清食品ホールディングス	—	82.4	233,604
パルプ・紙 (—%)			
レンゴー	281.3	—	—
化学 (10.5%)			
信越化学工業	66.4	62.3	295,115
三井化学	76	79.7	267,313
東京応化工業	81.3	77	306,537
積水化学工業	—	109.8	274,829
花王	51.3	41.5	276,016
エフピコ	85.1	82.1	217,811
医薬品 (1.7%)			
参天製薬	196.5	157.1	261,414
ゴム製品 (1.6%)			
ブリヂストン	51.5	42.6	256,324
ガラス・土石製品 (3.0%)			
A G C	54.8	55.8	236,647
T O T O	86.3	64	233,600
非鉄金属 (2.7%)			
住友電気工業	155.7	124.6	418,780
金属製品 (1.5%)			
三和ホールディングス	117.1	—	—
リンナイ	76.7	65.9	238,294
機械 (6.7%)			
S M C	4.2	5	251,300
小松製作所	72.5	58	290,754
栗田工業	51.7	47.4	263,354
ダイフク	108.7	—	—
ホシザキ	52.2	47	239,700
電気機器 (25.2%)			
イビデン	49.2	59.4	371,190

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
日立製作所	143	99	436,590
ニデック	44.3	93.3	253,869
富士通	157.7	109.7	348,078
アルバック	34.1	51.8	279,927
ソニーグループ	24.6	98.5	348,591
T D K	41.5	166.2	275,227
横河電機	85.2	81.2	306,936
アズビル	75.6	227.6	318,640
キーエンス	4.7	4.2	229,110
ファナック	74.3	59.6	227,552
浜松ホトニクス	—	150.9	272,751
村田製作所	108	118.8	254,766
輸送用機器 (5.7%)			
デンソー	152.6	135.9	263,646
トヨタ自動車	136.6	136.5	340,772
本田技研工業	190.8	190.2	282,351
精密機器 (4.8%)			
テルモ	123.1	98.6	232,548
島津製作所	71	73.7	238,566
H O Y A	18.9	15.2	273,144
その他製品 (1.6%)			
バンダイナムコホールディングス	99.9	53.8	244,252
陸運業 (3.1%)			
東日本旅客鉄道	99.9	79	248,692
ヤマトホールディングス	137.7	123	232,285
情報・通信業 (3.6%)			
N T T	2,080.3	1,719	257,850
東宝	64.4	31.5	310,338
小売業 (6.5%)			
Z O Z O	85.9	148.1	225,778
セブン&アイ・ホールディングス	159.1	112.1	217,698
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	86.3	63.7	317,417
ファーストリテイリング	7.7	5.7	253,308

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
銀行業 (5.6%)			
三菱UFJフィナンシャル・グループ	370.3	302.3	604,600
ふくおかフィナンシャルグループ	79.2	68.2	273,004
保険業 (1.9%)			
東京海上ホールディングス	70.4	50.1	295,339
その他金融業 (1.9%)			
オリックス	114.7	92.3	305,420
不動産業 (3.4%)			
パーク24	173.3	138.7	257,704
三井不動産	255.5	204.4	267,968

銘 柄		期首(前期末)	当 期 末	
		株 数	株 数	評 価 額
		千株	千株	千円
サービス業 (4.5%)				
オリエンタルランド		65.8	72.7	228,059
リクルートホールディングス		44.3	28.6	230,172
ダイセキ		89	70.7	243,915
合 計	株 数 ・ 金 額	7,389	6,712	15,589,758
	銘柄数<比率>	56	56	<99.5%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注) 評価額欄の< >内は、当ファンドが組入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の比率です。

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) ー印は組入れがありません。

ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド

運用状況のご報告

第16期（決算日：2025年1月20日）
（計算期間：2024年1月23日～2025年1月20日）

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第16期の運用状況をご報告申し上げます。

●当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。
主 要 投 資 対 象	わが国の株式
主 な 投 資 制 限	株式への投資割合…制限を設けません。 外貨建資産への投資割合…信託財産の純資産総額の30%以内とします。

○最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		参 考 指 数			株 組 入 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落 率	中 率	期 騰 落 率	中 率	中 率		
	円	%		%	%	%	百万円
12期(2021年 1 月20日)	30, 113	13. 5	30, 141	8. 6		98. 7	8, 276
13期(2022年 1 月20日)	33, 326	10. 7	32, 262	7. 0		98. 1	10, 696
14期(2023年 1 月20日)	32, 171	△ 3. 5	32, 944	2. 1		95. 7	12, 373
15期(2024年 1 月22日)	42, 505	32. 1	44, 612	35. 4		98. 6	18, 753
16期(2025年 1 月20日)	46, 035	8. 3	48, 647	9. 0		99. 1	18, 733

(注) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日（2009年 1 月30日）を10, 000として指数化したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		参 考 指 数			株 組 入 比 率
	騰 落 率	率	騰 落 率	率	率	
(期 首) 2024年 1 月22日	円	%		%	%	%
	42, 505	—	44, 612	—		98. 6
1 月末	42, 458	△ 0. 1	44, 724	0. 2		99. 0
2 月末	44, 412	4. 5	46, 927	5. 2		99. 2
3 月末	45, 851	7. 9	49, 008	9. 9		98. 1
4 月末	45, 396	6. 8	48, 560	8. 8		98. 0
5 月末	45, 853	7. 9	49, 122	10. 1		97. 8
6 月末	46, 481	9. 4	49, 836	11. 7		98. 4
7 月末	46, 482	9. 4	49, 566	11. 1		99. 0
8 月末	45, 714	7. 5	48, 131	7. 9		98. 9
9 月末	45, 455	6. 9	47, 394	6. 2		98. 3
10月末	45, 853	7. 9	48, 285	8. 2		98. 2
11月末	45, 758	7. 7	48, 037	7. 7		98. 5
12月末	47, 048	10. 7	49, 968	12. 0		99. 4
(期 末) 2025年 1 月20日	46, 035	8. 3	48, 647	9. 0		99. 1

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日（2009年 1 月30日）を10, 000として指数化したものです。

基準価額等の推移

当期の基準価額は、8.3%の上昇となりました。



※参考指数は期首の基準価額に合わせて指数化しています。

◇主な変動要因**当期前半**

上昇↑・組入れている、東京海上ホールディングス（保険業）、日立製作所（電気機器）、リクルートホールディングス（サービス業）、TDK（電気機器）、三和ホールディングス（金属製品）などの株価が上昇したこと。

当期後半

下落↓・組入れている、アルバック（電気機器）、信越化学工業（化学）、村田製作所（電気機器）、三井化学（化学）、三井不動産（不動産業）などの株価が下落したこと。

投資環境

当期の日本株市場は、期初から2024年4月にかけては、緩和的な金融環境が継続するとの観測の広がり、良質な企業決算および企業の変革期待、春闘での大幅な賃上げ率を受けたデフレ脱却期待の高まり、海外投資家の大幅な資金流入観測などを背景にリスク選好姿勢が強まり上昇しました。生成AI（人工知能）需要への期待を背景とする半導体関連株の上昇も追い風にTOPIXは2024年3月に節目の2,800ポイントを一時上回りました。その後7月にかけては、日米の金融政策の先行きや金利動向に投資家の関心が集まるなか、米経済指標や米株式市場に振られながら一進一退のボックス圏での展開が続いたものの、6月の下旬に一段の上昇に転じました。1ドル＝161円台への円安・米ドル高進行、米利下げ期待の高まり、米ハイテク株高などを背景に急ピッチな上昇を演じ、TOPIXは史上最高値を約34年ぶりに更新しました。8月から10月にかけては、米国の景気動向、日米の金融政策の行方、円安から反転し大幅に円高・米ドル安が進行した為替市場などに振られ値動きの非常に荒い展開でした。8月には歴史的な大暴落を演じ、その後は円高・米ドル安に歯止めがかかるなか持ち直し大幅下落の大部分を取り戻したものの、上値の重い展開で推移しました。その後は、トランプ新政権の政策への不透明感を重荷に神経質な展開ながら、堅調な米景気や日銀の追加利上げ観測の後退などを受けての円安・米ドル高進行、米株高などを好感し上昇となりましたが、8月から10月のマイナスを取り戻すには至りませんでした。米大統領選でのトランプ氏の圧勝を受けた、減税、規制緩和などの米景気刺激策への期待の高まり、米株高などを背景に堅調に推移する場面はあったものの、その後はトランプ新政権による関税引き上げや移民規制強化などの政策への警戒感、米国のインフレ再燃への懸念などが意識され上値が重い展開でした。

組入状況

主としてわが国のナンバーワン企業※の株式に投資してまいりました。

※ナンバーワン企業とは、優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力およびマーケティング力を有し、業界トップシェアを誇る企業、または今後それが期待される企業を指します。

組入銘柄の選択に当たっては、企業の利益成長に着目し、高い利益成長が期待できる銘柄に投資してまいりました。

◇組入上位10業種

【期首】

業種名	組入比率
電気機器	22.1%
化学	9.1%
小売業	6.9%
機械	6.8%
輸送用機器	6.4%
精密機器	5.4%
サービス業	5.2%
銀行業	4.3%
不動産業	3.5%
金属製品	3.3%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【期末】

業種名	組入比率
電気機器	23.4%
機械	8.2%
化学	7.7%
小売業	6.8%
輸送用機器	5.8%
銀行業	5.6%
精密機器	5.5%
サービス業	4.8%
情報・通信業	3.5%
不動産業	3.5%

◇組入上位10銘柄

【期首】

銘柄名	業種名	組入比率
トヨタ自動車	輸送用機器	2.7%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.7%
日立製作所	電気機器	2.4%
日本電信電話	情報・通信業	2.3%
信越化学工業	化学	2.2%
T D K	電気機器	2.2%
イビデン	電気機器	2.2%
三井不動産	不動産業	2.0%
富士通	電気機器	2.0%
ソニーグループ	電気機器	1.9%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【期末】

銘柄名	業種名	組入比率
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.7%
日立製作所	電気機器	2.7%
富士通	電気機器	2.2%
住友電気工業	非鉄金属	2.2%
H O Y A	精密機器	2.1%
ソニーグループ	電気機器	2.1%
トヨタ自動車	輸送用機器	2.0%
T D K	電気機器	2.0%
東京海上ホールディングス	保険業	2.0%
リクルートホールディングス	サービス業	2.0%



○今後の運用方針

(1) 投資環境

2025年1月の日本株市場は、米国の利下げ観測後退・長期金利上昇、米株安などを受けて前半は下落基調の展開となったものの、後半には2024年12月の米消費者物価指数（CPI）の結果を受けた米長期金利の低下、米ハイテク株高、2025年1月20日のトランプ米大統領の就任演説で予想外の発言がなかったことや大統領就任直後の関税引き上げが見送られたことによる安心感などから反発・上昇に転じています。ただし、トランプ米政権の関税引き上げや減税政策などによるインフレ再燃への懸念、同政権の自国優先の政策が世界経済に混乱をもたらすとの警戒感は引き続き意識されます。トランプ米大統領の政策を巡る不透明感を重荷に、しばらくは上値の重いレンジ圏での神経質な展開が続きそうです。一方、日本経済のデフレ脱却、日本企業の良い業績および株主還元強化や資本効率改善に向けた取り組みへの期待などを支えとする展開に変化はありません。市場が上昇基調に転じるには、外部環境の先行き不透明感の改善、景気・企業業績の来期以降の見通し向上が待たれそうです。したがって当面の株式市場は、トランプ米大統領の打ち出す政策および米景気の行方、日米の金融政策、為替市場、中国の景気動向、中東およびウクライナ情勢などをにらみつつ、来期以降の景気・企業業績の先行きを見極めていく展開となりそうです。

(2) 投資方針

優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力、マーケティング力などを有し、業界トップシェアを誇るナンバーワン企業の選別に引き続き注力しパフォーマンス向上に努めてまいります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2024年 1 月23日～2025年 1 月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 7 (7)	% 0.015 (0.015)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ その他は、信託事務の処理に要する諸費用
合 計	7	0.015	
期中の平均基準価額は、45,563円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2024年 1 月23日～2025年 1 月20日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 1,375 (1,328)	千円 4,267,052 ()	千株 1,676	千円 5,309,908

(注) 金額は受渡金です。
(注) 単位未満は切り捨てています。
(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2024年 1 月23日～2025年 1 月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	9,576,961千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	18,948,398千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.50

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。
(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2024年 1 月23日～2025年 1 月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○特定資産の価格等の調査

(2024年 1 月23日～2025年 1 月20日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年 1 月20日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (1.2%)			
ショーボンドホールディングス	50.2	46.4	227,360
食料品 (3.1%)			
アサヒグループホールディングス	56.8	161.8	256,857
日清食品ホールディングス	—	89.8	318,430
パルプ・紙 (1.3%)			
レンゴー	309.5	272.5	234,895
化学 (7.8%)			
信越化学工業	71.4	64.5	332,884
三井化学	80.6	73.6	243,174
東京応化工業	105.2	92.3	336,064
花王	55.2	50.3	296,971
エフピコ	84.3	86.5	240,124
医薬品 (1.6%)			
塩野義製薬	38.9	—	—
参天製薬	209.2	190.3	297,058
ゴム製品 (1.4%)			
ブリヂストン	51.5	49.9	263,571
ガラス・土石製品 (3.1%)			
A G C	57.1	66	296,802
T O T O	—	74.8	280,874
非鉄金属 (2.2%)			
住友電気工業	181.2	148.8	404,289
金属製品 (1.8%)			
三和ホールディングス	145.2	21.6	96,530
リンナイ	81.7	74.3	245,784
機械 (8.3%)			
SMC	3.8	4.8	285,216
小松製作所	77.2	70.3	307,000
栗田工業	—	50.1	277,253
ダイフク	106.8	113.3	361,766
ホシザキ	60	52.6	307,604
電気機器 (23.7%)			
イビデン	51.1	62.7	297,574
日立製作所	39.6	133.1	505,646
ニデック	46.8	85.9	240,305

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
富士通	18	152.7	415,802
アルバック	45.9	40.4	251,530
ソニーグループ	24.7	119.2	386,088
T D K	55.5	201.2	377,954
横河電機	109.2	85.1	293,084
アズビル	67.5	292.9	343,864
キーエンス	4.9	4.6	311,282
ファナック	58.1	72	336,384
浜松ホトニクス	—	182.6	348,857
村田製作所	98.6	116.7	282,297
輸送用機器 (5.9%)			
デンソー	156.8	165.7	352,858
トヨタ自動車	172.6	132.3	379,701
本田技研工業	203	244.4	362,200
精密機器 (5.6%)			
テルモ	66.6	119.3	349,012
島津製作所	76.9	68.7	300,631
H O Y A	19.4	18.4	386,676
その他製品 (1.7%)			
パンダイナムコホールディングス	105.4	90.9	314,423
陸運業 (2.8%)			
東日本旅客鉄道	35.1	96.7	255,771
ヤマトホールディングス	114.5	148.9	268,987
情報・通信業 (3.6%)			
日本電信電話	2,239.3	2,015.6	305,564
東宝	—	54.3	358,380
卸売業 (—%)			
シップヘルスケアホールディングス	94.4	—	—
小売業 (6.9%)			
Z O Z O	102.8	54.7	264,310
セブン&アイ・ホールディングス	54.4	135.8	332,913
ツルハホールディングス	24.4	—	—
バン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	—	83.4	346,276
ファーストリテイリング	8.4	6.9	334,650
銀行業 (5.7%)			
三菱U F J フィナンシャル・グループ	386	364.1	697,433

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
ふくおかフィナンシャルグループ	87.7	86.2	354,454
保険業 (2.0%)			
東京海上ホールディングス	92.9	70.5	374,919
その他金融業 (1.9%)			
オリックス	123.8	111.1	363,630
不動産業 (3.5%)			
パーク 2 4	154.5	167.8	326,958
三井不動産	97.7	247.6	320,023

銘 柄		期首(前期末)	当 期 末	
		株 数	株 数	評 価 額
		千株	千株	千円
サービス業 (4.9%)				
オリエンタルランド		55.5	64.2	212,951
リクルートホールディングス		57.1	34.7	370,769
ダイセキ		70	86.2	320,664
合 計	株 数 ・ 金 額	7,044	8,072	18,555,345
	銘柄数<比率>	55	58	<99.1%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) 一印は組入れがありません。

○投資信託財産の構成

(2025年 1 月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	18,555,345	99.0
コール・ローン等、その他	190,790	1.0
投資信託財産総額	18,746,135	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2025年1月20日現在）

○損益の状況（2024年1月23日～2025年1月20日）

項 目	当 期 末	項 目	当 期
	円		円
(A) 資産	18,746,135,541	(A) 配当等収益	392,691,006
コール・ローン等	157,961,056	受取配当金	392,596,512
株式(評価額)	18,555,345,910	受取利息	125,733
未収配当金	32,828,100	その他収益金	576
未収利息	475	支払利息	△ 31,815
(B) 負債	12,881,000	(B) 有価証券売買損益	1,102,282,434
未払解約金	12,881,000	売買益	2,502,713,118
(C) 純資産総額(A－B)	18,733,254,541	売買損	△ 1,400,430,684
元本	4,069,381,541	(C) 保管費用等	△ 918
次期繰越損益金	14,663,873,000	(D) 当期損益金(A＋B＋C)	1,494,972,522
(D) 受益権総口数	4,069,381,541口	(E) 前期繰越損益金	14,341,759,448
1万口当たり基準価額(C／D)	46,035円	(F) 追加信託差損益金	4,043,577,384
		(G) 解約差損益金	△ 5,216,436,354
		(H) 計(D＋E＋F＋G)	14,663,873,000
		次期繰越損益金(H)	14,663,873,000

- <注記事項>

(貸借対照表関係)

(注) 期首元本額 4,412,152,171円

期中追加設定元本額 1,144,155,616円

期中一部解約元本額 1,486,926,246円

(注) 1口当たり純資産額 4.6035円

(注) 期末における元本の内訳

ビクテ日本ナンバーワン・ファンド(毎月決算実績分配型) 1,796,000,460円

iTrust日本株式 1,649,042,584円

ビクテ日本ナンバーワン・ファンド(適格機関投資家専用) 624,338,497円
- (注) 損益の状況の中で(B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

該当事項はございません。